



令和4年度 第2回北区幼保小連携推進協議会を開催しました

10月19日、北区幼保小連携推進協議会が幌北小学校にて開催されました。第1回に続き小中パートナー校を基準としたブロックで、同じ地域の教師・保育者が具体的な子どもの育ちについてじっくりと話し合う機会となりました。

記録やアンケートから、一部ですがご紹介します。是非、今後の各校・園の取組、そして地域での連携の参考にしていただければと思います。

テーマ 『**学びをつなぐ幼保小連携・接続**』
～**幼児期の教育と児童期の教育の理解を深める**～
② **学ぶ** 幼児の育ちつつある姿を見取ろう

今回は1枚の写真を見て、『**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)**』と照らし合わせながら、育ちつつある姿を見出し、それらは**小学校のどのような力につながっていくのか**、**幼児期にどのような経験が大切なのか**などを話し合いました。

～各ブロックの話合いより～

幼児期に既に培われていること、これまでに育った自己肯定感などを**小学校で認め、受け入れてスタートさせることが大事。**

この遊びの中で**多くの『10の姿』につながる学びが見られた!**

体験は生きる力につながる! 幼児期に直接体験が少ないと、感情のコントロールが難しくなる。

自分たちのブロックは、失敗を避けたい子どもが多いことが分かった。幼児期から、**未知のことを経験する面白さ、失敗から学ぶ経験が大事。**

『10の姿』に向かっていくためには、**そこにいる先生の関わりが重要。**

ブロック内の**幼保小連携を自分たちでもっと深めていきたい!**

幼小それぞれの発達段階に応じて活動内容は違うが、**根っことなる考え方は一緒だと分かった。**

一つ一つの遊びや活動が単発で終わるのではなく、**人や物への関わりを広げながらつながっていくことの大切さを知った。**



～参加者の感想より～



参加された皆様のご感想から、「具体的な子どもの姿を通して、同じ地域の幼保小の先生方でじっくり話せたことがとてもよかった。」「幼保と小で捉え方の違いも分かり、自分たちの学びになった。」などという声がたくさん寄せられました。その中で、接続期の学びに関わる部分を一部抜粋してご紹介します。

小学校の先生より

幼小では時間の使い方がだいぶ違うが、環境を整えることで、そこを補ったり子どもの力を伸ばしたりできると感じたので、地域で情報を得ていきたい。

子どもたちの興味を生かす実践が素晴らしい。小学校でも子どもの興味を学習活動につなげられるようにしたい。

遊びの中にたくさんの学びがあると気付かされる。その学びをどう小学校の学習に生かしていくのかをしっかりと考えていきたい。

どのような育ちをもって小学校に来るかを知れば知るほど、子どもの育ちに生かすことができる。

地域の実態やこの会で学んだ子どもを見取る視点などを生かし、カリキュラムを見直していきたい。



子どもの思いを大切にしている
幼保の意図を考慮して進めたい。

幼・保・認の先生より

『10の姿』は独立しているのではなく、つながっていることを改めて感じた。明日からの保育で10の姿の内容を意識していきたい。

小学校の先生と視点の違いを感じたが、『10の姿』から見ると同じになるものが多く、子どもを育てる思いは同じだと感じた。

技術・能力面ばかりではなく、もっと内面のことを大切に育てたいと思った。

一つの遊び、姿から、『10の姿』につながる成長を促せるような保育を目指したい。

直接体験を通して友達と考え合う、やってみる、できた、おもしろかった、と思えることが学びにつながると思う。大人の感性も大切!

園内でもこのようなディスカッションができるとうれしかった。



この会を糸口に、地域の幼保小連携につなげましょう!

お知らせ

幼保小連絡会 ～支援をつなぐ～

日時: 令和5年1月12日(木) 13:30～

*今年度も電話による引継ぎとなります(Zoomの活用もできます)

*各校・園の時間は、幼児教育センターからの時程表でご確認ください

